



<展覧会 開催のお知らせ>

UNPEL GALLERY（アンペルギャラリー）では、運営母体であるあいおいニッセイ同和損保のメセナ活動として、全国の大学・美術大学と連携し日本画を学ぶ学生、卒業生に発表の場を提供しております。

この企画は、日本画を志す若手作家の育成と共に、各地域の文化芸術の支援活動を通じてあいおいニッセイ同和損保の活動指針である「地域密着」を具体化する取り組みです。

2024 年は、8 校の若手日本画作家がそれぞれの作品を発信するロングラン企画（2 月～8 月）となります。

今回は、5 月 18 日（土）から九州産業大学在学学生・修了生による「ひびの_」 井口麻未、後藤 悠介、仲間 琉妃 計 3 名の展覧会を開催いたします。

■展覧会概要

タイトル	『ひびの_』～第 27 回大学日本画展 <九州産業大学在学学生・修了生>～
会期	2024 年 5 月 18 日（土）～6 月 2 日（日） 11:00 ～ 19:00（月曜定休・最終日 17:00 まで）【入場無料】
会場	UNPEL GALLERY 東京都中央区日本橋 3-1-6 あいおいニッセイ同和損保八重洲ビル 1F
参加作家	井口麻未（いぐちあさみ）、仲間琉妃（なかもりゆうき）、後藤悠介（ごとうゆうすけ）
展覧会内容	“日々の…”と聞くと、その後に何らかの言葉が続いていくように考えるのではないのでしょうか。日々の暮らし、日々の思い出、日々の積み重ね、など他にも数多くの言葉があります。 今回の展覧会では、在学学生 2 名と卒業生 1 名のそれぞれが、日々の中で見つけたものをモチーフとして制作した作品を展示致します。 毎日刻々と時間は進んでゆき見るもの会うもの全てが流れ、移り変わっていく普遍的な日常において、様々な生活があるように、3 名それぞれの表現方法も全く異なっています。それぞれの日々から生まれた作品をぜひご覧いただければ幸いです。
主催	九州産業大学 芸術学部絵画専攻 日本画
企画	UNPEL GALLERY
協賛	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

<ご連絡・お問い合わせ先>

ギャラリーオフィス 11:00～19:00 月曜定休（担当 / 井上・内城）

E-mail / tsubaki@un-pel.com <https://unpel.gallery/>

TEL / 03-3548-7780 FAX / 03-3548-7781 * お問い合わせは E-mail にてお願いします

■作家プロフィール

井口 麻未

福岡県出身

2019 年 シェル美術賞 2019 オーディエンス賞

2020 年 九州産業大学院芸術研究科博士前期課程造形表現専攻 修了

2023 年～ 九州産業大学芸術学部絵画専攻非常勤講師



【コメント】

大学在学時から現在までに制作した作品を展示します。

現在は主に、「なぜ人は一人一人異なる装いをしているのか」という疑問から装いをモチーフとした作品を制作しています。この世の中に数え切れないほどある服や靴、帽子やアクセサリなどから何らかの理由で選択し、何通りもの組み合わせの中から今日の装いを決定する。その過程やその時の装いによって周りに与える印象、あるいは自分自身に与える影響について表現しています。

自分好みのファッションを貫くと、時には周りの目が気になることや傷つくこともあるかもしれません。しかしそれ以上に、好きなものに包み込まれ己を表現し堂々と歩いていたいと思うのです。装いは人と関わり合うため、そして自身について探究する手段の一つの形なのです。



「今日の装い 60 人」

2023 年制作

1167 × 1167 mm

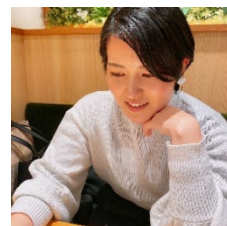
パネルに麻紙、アクリル

仲間 琉妃

沖縄県出身

2024 年 3 月 九州産業大学芸術学部芸術表現学科 卒業

2024 年 4 月 九州産業大学院芸術研究科 入学



【コメント】

日常生活の中で綺麗だと思った風景や、ふと思い出した事柄や言葉を自分なりの解釈に置き換えて画面に収めています。作品を作るに至った経緯や、その時考えていたことなど、自分の感覚や感性を忘れてしまうことが怖く、作品はそれらを記録する側面もあります。いつか色々なことを忘れ、今とは違う自分になった時に、あの頃の自分は何を考えて生きていたのか思い出せたらいいなと思います。



「点、線、面、立体」

2023 年制作 1167 × 910 mm

和紙、胡粉、水干絵具、岩絵具、銀箔

後藤 悠介

福岡県出身

2024 年 九州産業大学芸術学部芸術表現学科絵画専攻日本画 4 年
在学中



【コメント】

生き生きと育つ様子から朽ち果ててゆくまでの過程を見ていると未来を想像してしまいます。明日になっても生い茂っているか、それとも枯れているのか。最近は特にその感情が強く、自身が生きていることを再認識させられます。そのような実感をできるだけ素直に表現したいと感じた際、自然物はダイレクトに伝わるものがありました。



「栞」

2023 年制作

1620 × 1303 mm

和紙、墨、胡粉、岩絵具、アルミ箔